

# 東日本大震災による葉たばこ栽培地域の変貌

## —福島県田村市旧移村地区を事例に—

愛知教育大学

初等教育教員養成課程 社会選修

地理学専攻 4年

久米英輔

### 摘要

2011年に起きた東日本大震災は東北地方を中心に農業へ大きな被害をもたらした。それ以降、被災地域における農地・農業用施設の復旧や農家の再営農が着実に進んできた。こうした震災からの農業の復興に関して、従来の研究では岩手県・宮城県・福島県の津波による被害を被った太平洋岸地域を取り扱った研究は数があるものの、津波以外の被害や中山間地域を取り扱った研究は少ない。そこで本研究では、福島県田村市旧移村地区の葉たばこ栽培を事例に、震災による当該地区の葉たばこ栽培への影響や葉たばこ栽培が再開された要因について、福島県たばこ耕作組合、当該地区の葉たばこ農家への聞き取り調査及びアンケート調査の結果から考察した。

その結果、旧移村地区では東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の影響により、2011年の葉たばこ栽培が休止されるとともに、2012年から2014年までの間葉たばこの栽培が制限されていたことが分かった。また、2011年には日本たばこ産業から廃作協力が募集されており、前述の原発事故に伴う東京電力からの賠償金と廃作協力から得られる廃作協力金を背景として、高齢農家が廃作、若年農家が他産業へ転業し、当該地区の葉たばこ農家は2012年には前年の半数ほどまで減少していたことが分かった。

また、栽培制限解除後に葉たばこを再開した農家について、その要因を分析した。その結果、栽培を再開するにあたって新しく機械・設備を購入して新しい作物を始めるよりも、機械・設備の投資の必要がなく、技術を有する葉たばこ栽培を続けるという意味が、多くの農家で働いていることが分かった。

また、再開に際しての不安については、体力面と再開までのブランクを挙

げる農家が多かった。こうした不安は震災前と栽培制限解除後の経営面積の差として顕著に表れ、上記 2 つの不安を挙げた農家、挙げなかった農家の両方において、多くの農家が経営面積を減少させて栽培を再開している。このことから、これら 2 つの不安は栽培制限解除後の旧移村地区における葉たばこ経営面積を減少させるという影響を与えた。

そして、これら不安を抱えつつも栽培を再開した農家については、今後の課題についてもみえてきた。それは、担い手の高齢化と後継者不足である。これら課題を解決するためにも、作業の機械化を進め、後継を見据えて若い労働力を増やしていくことが必要であると考えられる。